

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成18年3月15日
種 別	古文書
名 称	岩崎家文書
員 数	一括
所 在 地	宮代町西原289
所有者の住所・氏名	宮代町教育委員会
管理者の住所・氏名	同上
経過及び現況	<p>岩崎家文書は、総数4193点である。古文書の発見の経緯は、平成3年に土蔵の老朽化に伴い、蔵内の整理を行ったところ、長持や挟箱の中から多量の古文書が発見されたことに始まる。文書群の概要としては、百間中島村絵図や百間村絵図、用悪水関係の絵図などが多くあり、他文書群に比し多い傾向といえる。また、笠原沼中島村新田検地帳や百間中島村水帳百姓持高改帳なども残る。特に後者は、元和5年の百間村検地帳の中島村分百姓の書き抜きの名寄帳であり、非常に貴重といえる。この他、願書や廻状、年貢割付状、皆済目録、捉飼場、助郷、触書など名主家に特徴的な文書を有す。時代的には江戸時代中期から後期・明治初頭の組頭や名主や副戸長・戸長時代のものが殆どである。岩崎家は天明年間頃組頭であることが確認でき、文政10年頃、前任の世襲名主であった島村家から名主職を引き継いだと考えられる。この時、百間中島村にとって重要な書類を前任の名主から引き継いだと考えられる。</p> <p>平成3年に発見された古文書は、その後、町史編纂に伴い郷土資料館で整理され、平成6年3月31日付けで、宮代町史資料集第5集として、目録と一部筆耕を掲載した「岩崎家文書」を刊行した。</p>
指定理由	<p>近世の状況が視覚的に分かる絵図や、笠原沼や逆井新田の検地帳、当時の村の様子分かる願書や書状など百間中島村の様子が古文書から垣間見られ、非常に貴重な文書群といえる。</p>
備 考	

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成18年3月15日
種別	歴史資料
名称	五社神社本殿箱付和鏡 付柄鏡及び台座
員数	箱付和鏡 5面 蓬萊山柄鏡 1面 台座 1点
所在地	宮代町東90
所有者の住所・氏名	五社神社
管理者の住所・氏名	五社神社
経過及び現況	<p>五社神社本殿に安置する箱付和鏡は5点有り、いずれも元禄14年5月に奉納されたものである。奉納者は西光院住職・百間西村嶋村新右衛門・旗本永井氏家臣青井七右衛門・百間東村鈴木治左衛門・戸崎村鈴木源左衛門の5人である。和鏡の作者は二橋伊豆守であることが確認できる。和鏡が納められる箱内にはそれぞれ仏像が安置する。毘沙門天・千手観音・阿弥陀如来・不動明王・薬師如来の五体である。本社の祭神が紀州熊野三社と近江山王社、白山社であり、本地垂迹説によると熊野本宮が阿弥陀如来、新宮が薬師如来、那智社が千手観音であることと関係があると推定される。また、薬師如来像の裏面には「麴町三町目横丁南ノ方 天神ノ下 永井美濃守内」とあり、百間東村の領主であった旗本永井氏との関係が伺われる。</p> <p>御神体である和鏡の台座には、元禄14年9月9日と記され奉納者は、百間西村の嶋村新右衛門勝政であることが確認できる。西光院勸進帳によると元禄12年に五社神社の再興のための寄付がなされており、五社神社の再興（修理）と和鏡の奉納は関係があると推定される。</p>
指定理由	<p>神仏習合時代の和鏡であり、鏡と仏像が伴に確認できることは珍しい。また、和鏡は、五社神社の再興に併せ寄進されたものと推定され、奉納者・作者・年代とも確認でき貴重といえる。</p>
備考	

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成18年3月15日
種 別	歴史資料
名 称	川島庚申塔群
員 数	庚申塔5基 常夜塔2基（1対）
所 在 地	宮代町百間6丁目655番地
所有者の住所・氏名	切戸・川島庚申講中
管理者の住所・氏名	宮代町百間4丁目10番25号 深井五左エ門
経過及び現況	宮代町内でも比較的古い庚申塔群である。庚申塔は5基、常夜塔2基が所在する。最も古い庚申塔は延宝4年（1676）の舟形を呈するもので、覆屋内に所在する。他の4基の庚申塔はいずれも笠付角柱型のもので、古い順に元禄13年（1700）、享保19年（1734）、明和2年（1765）、文化10年（1813）に造立されたものである。なお、常夜塔は天明7年（1787）に建てられた。川島庚申講は、少なくとも延宝4年から文化10年（1813）に至る150年間に渡り続いており、地区の全世帯が加入していたものと推定される。庚申塔などの記念物は凡そ25年から30年に一度造立されていたようである。
指定理由	町内で最も古い庚申塔を含む庚申塔群であり、講を中心とした近世のムラ社会を考える上でも非常に貴重といえる。
備 考	